令和　3　年度事業評価シート

No.1

PLAN(計画)　　自己評価

事務事業番号	17

担当課	福祉課	担当課長	稲永 みき
事業担当者	城戸 智美	一次評価者	今村 春美
事業区分	継続事業	事務事業評価の履歴	有
事務事業名	地域子ども・子育て支援事業		
予算科目	3 款 2 項 5 目		
予算事業名	子育て支援事業児童福祉施設運営費		
総合計画での位置づけ（施策名）	安心な子育て環境をつくる		
事業の性格	自治事務		
法令根拠等	児童福祉法、子ども・子育て支援法、久山町地域子育て支援拠点事業実施要綱、久山町一時預かり実施要綱、久山町ファミリー・サポート・センター事業実施要綱、久山町病児保育実施要綱等		
事業の対象	久山町に住所を有する子育て世帯		
事業の目的	地域子ども・子育て支援事業として位置付けられた13事業（地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業、ショートステイ、病児保育など）により子育て世帯のさまざまなニーズに対して地域での子育て支援を図る。		
実施期間 開始年度	平成 17 年度から		
実施期間 終了年度	令和 年度まで		
事業の内容	・地域子育て支援拠点事業　・一時預かり事業　・ショートステイ事業　・病児保育事業　・ファミリー・サポート・センター事業　・届出保育施設運営補助事業　・届出保育施設職員健診補助事業		

目的達成の指標（成果指標）

久山町子育て支援センター「木子里」利用者数（土日含む）

区分 年度	単位	2 年度	3 年度	4 年度	5年度
目標	延人	7,000	1,500	1,500	1,500
実績	延人	853	1,071		

指標設定の考え方	地域子育て支援の拠点として位置付ける子育て支援センター「木子里」の利用者の増を図ることで、子育て支援情報の提供ができるとともに、保健師につなぐことができる。
計画時の懸案事項	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での事業実施が通常となる中で、町が必要と思った保護者にどれだけ利用を促せるか。
計画時の懸案事項への対応	母子保健担当と連携を強化し、気になる保護者へは個別の声かけを行った。

PLAN（計画）

No.2

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額　881 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。（千円）

項目		2 年度予算	3 年度予算	4 年度予算	5 年度予算
事務量	① 人工数	0.26	0.27	0.27	0.27
	② 人件費単価	7,652	7,179	7,898	7,898
	③ 補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費（①×②－③）	1,989	1,938	2,132	2,132
事業費	直接事業費	13,242	13,261	20,145	20145
	人件費	1,989	1,938	2,132	2,132
	合計	15,231	15,199	22,277	22,277
財源内訳	国庫支出金	4,191	3,526	5,098	5098
	県支出金	3,303	3,526	5,148	5148
	地方債	0	0	0	0
	その他	20	18	25	25
	一般財源	7,717	8,129	12,006	12,006
	合計	15,231	15,199	22,277	22,277

事業費計画

（千円）

区分／年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
目標	13,242	13,261	20,145	20,145	13,975
実績	13,242	12,225			

事業活動の実績（活動指標）

※ 上段には目標値を、下段には実績値をそれぞれ記入してください。

項目	単位	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
参加世帯数（にこにこひろば）	延世帯	2,000	1,000	1,000	1,000
		204	299		
参加世帯数（赤ちゃんのへや）	延世帯	300	144	144	144
		58	67		
参加世帯数（のびっこひろば）	延世帯	250	120	120	120
		42	56		
病児保育利用者数	延人	10	10	10	10
		0	0		
ファミサポ会員登録数（久山町のみ）	人	80	80	80	80
		73	78		

DO（実施）

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額　765 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。（千円）

項目		2 年度決算	3 年度予算	3 年度決算	4 年度予算
事務量	① 人工数	0.26	0.27	0.27	0.27
	② 人件費単価	7,652	7,179	7,022	7,898
	③ 補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費（①×②－③）	1,989	1,938	1,895	2,132
事業費	直接事業費	13,242	13,261	12,225	20,145
	人件費	1,989	1,938	1,895	2,132
	合計	15,231	15,199	14,120	22,277
財源内訳	国庫支出金	4191	3,526	3526	5,098
	県支出金	3304	3,526	3526	5,148
	地方債	0	0	0	0
	その他	20	18	18	25
	一般財源	7,716	8,129	7,050	12,006
	合計	15,231	15,199	14,120	22,277

実施備忘録

目標達成の指標：コロナ禍でR2年度は事前予約のみ。3年度は当日、空があれば利用可能とした。2年度の実績と状況を考慮し、R2年度の約2倍で想定。

CHECK（評価）

No.3

自己評価

評価者	城戸　智美

5段階評価で評点を付けます。
5　大 ←→ 小　1　↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
□ 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	A
□ 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
□ 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	4	
□ 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	4	
2. 町が実施する必要があるか？		
☑ 町が実施主体となることが法令等により定められている。 **※該当する場合は左の□にチェックしてください。**		
□ 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	2	A
□ 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	4	
□ 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	2	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		
□ 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	B
□ 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
□ 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		
□ 事業費に見合った成果を上げている。	4	B
□ 外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。	4	
□ 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		
□ 受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）	4	B
□ 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
□ ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	4	

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□ A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）	
☑ B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）	
□ C見直し	
□ D廃止	
□ E完了	

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

4. 自己評価の理由（必要性、有効性、効率性、公平性・透明性の観点から）

子育て支援センター木子里は、本年度においても自由来館まではできていないが、当日予約の受入れが可能なことから予約制ではあるが、自由来館に近い受入れが可能となっている。
病児保育は、新型コロナウイルス感染症の関係で子どもの発熱時は保護者が休まれることも多く利用はないが、ショートステイ同様、万が一の時に利用できる事業として継続実施が必要である。

5. 成果実績の評価（今後の方向性等について具体的に）と課題認識

子育て支援センター木子里では、講習など人を集める活動ができておらず、目的を持った活動より日常の利用促進が中心となっている。今年度木子里にインターネット環境を整えたことから、今後新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら、WEBの活用も視野に入れ実施できる講習などを現場スタッフと協議し、実施に繋げていく。また、インターネット環境を整えたことでスタッフはこれまでUSBでデータをやり取りしていたが、保育所や役場とのやり取りがスムーズに行えるようになり、負担軽減に繋がった。
ショートステイは、身内で解決される場合が多いが、緊急時の利用先として周知を強化していく。
病児保育については、今後福岡都市圏での広域利用の案があり、支出は増えるが利用者の利便性は格段に上がるため、引き続き動向を注視していきたい。

CHECK（評価）

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

一次評価

評価者	今村　春美

5段階評価で評点を付けます。
5　大 ←→ 小　1　↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
□ 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	A
□ 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
□ 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	4	
□ 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	4	
2. 町が実施する必要があるか？		
☑ 町が実施主体となることが法令等により定められている。　※該当する場合は左の□にチェックしてください。		
□ 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	2	A
□ 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	4	
□ 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	3	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		
□ 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	B
□ 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
□ 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		
□ 事業費に見合った成果を上げている。	4	B
□ 外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。	4	
□ 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		
□ 受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）	4	B
□ 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
□ ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	4	

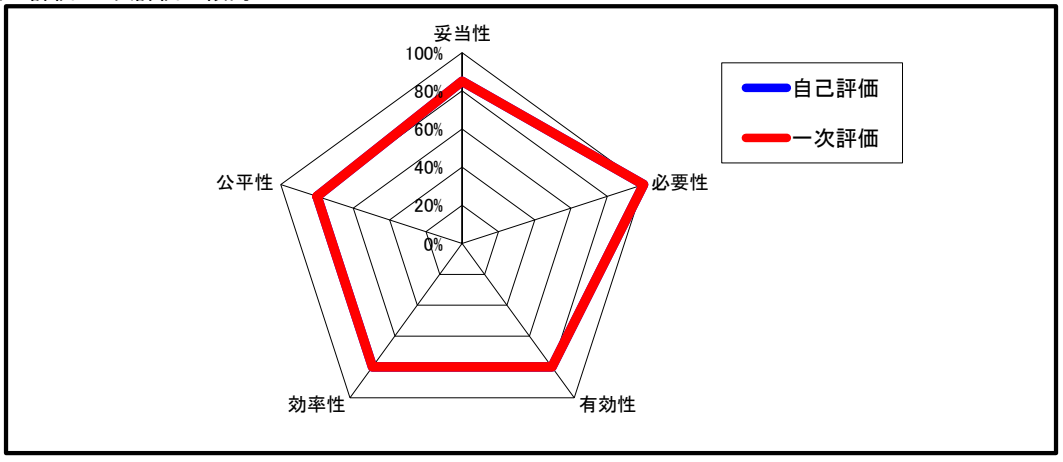
今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□ A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）	
☑ B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）	
□ C見直し	
□ D廃止	
□ E完了	

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

一次評価の理由（今後の方向性等について具体的に）

子育て支援センター木子里は、途中施設閉鎖もありコロナ禍前までとはいかないものの、自由に来館に近い状況を提供できている。3年度にインターネット環境も整備したため、今後はそれを活用し、感染拡大時でもとぎれない支援を工夫して実施していきたい。
病児保育やショートステイ事業は利用者がなかったが、緊急時に必要な事業であるため、継続して実施する必要がある。
ファミリー・サポート・センター事業も、ニーズはあり必要な事業であるため、継続して実施する必要があると考える。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION（評価・改善）

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.5

二次評価

評価者	稲永　みき

□ A以下の点について良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。

☑ B計画どおり、現状のまま事業を継続する。

昨年度に続き新型コロナ感染症の影響による施設閉鎖や感染予防策を講じながらの事業実施となったため、利用者数は少ないが、事業方法を工夫しながら継続していく必要がある。

□ C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するため計画の見直しを行う。

□ D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。

外部評価委員会で評価する。

月　　日
開催予定

□ E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。

□ 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。

一次評価をやり直し、
月　　日
までに提出すること。

□ 評価終了
□ 外部評価へ

ACTION（評価・改善）

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.6

外部評価

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□	A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）
□	B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）
□	C見直し
□	D廃止
□	E完了

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

評価		外部評価委員の意見

経営者会議

経営者評価	町長

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□	A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）
□	B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）
□	C見直し
□	D廃止
□	E完了

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

評価		経営者会議の結果

令和　5　年度予算要求事項（今後の取り組み）